

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第7回フォーラム研究会
逐語録

(木村) では、始めたいと思います。

まず、資料の番号をつけていきたいと思います。議事次第が F7-0 です。次に、前回の議事録案が F7-1 です。こちらはメールでつい先日お送りしたものです。次に、第4回フォーラムに関するアンケート集計結果が F7-2 です。第4回フォーラムの反省会メモが F7-3 です。第5回フォーラムのスケジュール表が F7-4 です。

ここからが配布資料になっています。第5回フォーラムの頭紙が F7-5 です。模造紙の取りまとめ資料は、まだ間に合っていないので、今日はつけていません。話し合いのルールが F7-6 です。グループワークの進め方が F7-7 です。第5回フォーラムに関するアンケートが F7-8 です。模造紙の作り方が F7-9 です。次に、フォーラムインタビューご協力のお願いという資料があります。真ん中に2枚紙が入っているものです。F7-10 でお願ひします。それから、「エネルギーと原子力に関するアンケート」という資料が2つあると思います。16ページで終わっているほうが F7-11 です。20ページで終わっているほうが F7-12 です。今日ご用意している資料は以上ですが、いかがでしょうか。

あとは、温暖化に関する4種類のパンフレットをプリントアウトしています。全員分はありませんが、後ほど、回覧するタイミングを取りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

そうしたら、さっそく議事に入っていきたいと思います。今日は、後半が長くかかると思いますので、第4回フォーラムの振り返りについては、1時間くらいで終わらせたいと思います。言い足りないことは、次回の研究会が8月5日にありますので、そのときを取っておいてもらって、今日は、言っておかなければいけないというものを言ってもらいたいと思います。

0. 前回議事録確認

(木村) まず、議事録確認ですが、皆さんにメールでお送りしていますので、何かあったら連絡をいただければと思います。内容は、第3回の振り返りと、第4回設計をしたということになります。

1. 第4回フォーラムの振り返り

(木村) 次に、第4回の振り返りをしておきたいと思います。今日は、模造紙の取りまとめ資料が準備できていませんので、アンケート集計結果と、前回の反省会メモを見ていただきたいと思います。これくらいだったら5分でいいでしょうか。では、5分時間を取りますので、各自目を通して、反省点等を考えていただければと思います。では、13時12分まで時間を取りたいと思います。

(各自資料に目を通す)

(木村) だいたい5分経ちましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしたら、1人ずつ意見を言ってもらおうと思います。こちらの方からどうぞ。

—— 私は周りで見えていたのですけれども、サブファシリテーターが3人だったから、2人でやるよりは役割を決めてやれてよかったと思うのですが、3人でやることってめったにないから、もう少し参加者に配慮ができたのではないかなと思うのですけれども、皆さんがそれぞれ一生懸命で、なかなかそこまで行かなかったのかな、と見ていて思いました。

それから、終わった後の反省会についてですけれども、サブファシリテーターをした皆さんは、参加者の誰がどうだったという話は聞いてもあまり参考にはならないので、誰がどうだったから自分はどうしたとか、できなかったとか、次の運営に役立つような意見を言っていた方がいいのではないかと思います。今日もそれをお願いいたします。以上です。

(木村) では、次の方、お願いします。

—— はい。アンケートの集計結果を見て、気になった点が、Q1の市民の意見ですけれども、「本日のテーマはまさにこのフォーラムの開催する目的の最終議論であり」と書いてあるのですけれども、この人は結論を出すことが目的だと思っているのかなと思って、誤解とってはあれですけれども、少し気になりました。

それから、Q2の専門家のご意見で、「私以外の専門家が私と意見が違うので残念ですね」とありますが、「残念ですね」で終わっていて、やはり目的を理解できない方がいらっしゃるのだなと思いました。

それから、最後の30秒コメントのところで、ある方が、ファシリテーターに何回も当たって、また当たりたいという意欲のある感想をおっしゃっていたと思うのですけれども、そういえば、私はB班でしたけれども、その方はA班で、その方が落ち着いてマニュアルを読んでいる声が聞こえたときがあったのですね。ああ、この方は、私たちが作ったマニ

ュアルを十分に活用しているなど。こういうふうには活用されるということは、作った甲斐があったというか、いいものができていたのかなと思いました。一定のルールの上であれば、議論をきちんと深めていけるということの、ひとつの証明というは大げさかもしれないけれども、そういうことになるのではないかと思いました。

それは、アンケートの集計結果の中でも、前回は自分の意見と違うほうの意見も書いてくださいとしましたよね。そういうことに対して、皆さんの感想の中に、気づきがみられるなどと思いました。例えば、Q3の専門家のご意見で、「原発不要にも多様な考え方があることに気づかされました」とか。市民のほうも、「原発というものに対して、2つの見方を手に入れることで、自分の意見に対し、疑問を投げかける機会となりました」ということで、前回の話し合いのスタイルがよかったのかなと思いました。以上です。

(木村) ありがとうございます。要・不要両方をやるスタイルで、気づくことが多いという人が多かったので、あれはいいスタイルなのかなと私も思っています。

では、次の方、お願いします。

—— 前回の直後の反省会で、サブファシリテーターや運営に関する反省がたくさん出たのですけれども、グループの島が大きいとか、人数が多いことによって、そういうふうになってしまったのではないかという意見も出たと思います。

アンケートのQ8の市民の意見で、「今日はグループが2つで、もうひとつのグループの内容を把握することだけで済みましたので、発表を聞くのは楽だったのですが、グループの人数が多かったので、勝手に話が進んでしまう、ということがあったように思いました」というものがあります。あと、Q2の専門家の意見で、「グループワーク2の時間切れ、スタッフの方々の仕切りを徹底していただいたが、話を止められて残念に思われた方もいたのではないかという心配。いたしかゆし」というものがあります。全体的に、付箋に書く、グルーピングする、見える化する、そのひとつひとつを「作業」と思って、作業に追われて話が深められなかったのが残念、不満というイメージが、結構市民の方に多いような気がします。こちらとしては、ただ漫然と話し合っているだけだと、話が散漫になってしまう。普段の会話でもそうじゃないですか。だから、頭の中を整理するためにも付箋に書いたり、見える化したりしていると思うのですけれども、やはり参加者の感覚としては、作業に追われる。そのために時間が足りない。話し合いが深められない。実際に時間は足りないと思いますけれども、そういうイメージが強いのかなというのを感じました。

私も、サブファシリテーターとしては、時間の管理などに神経をとがらせる部分もありますし。それでも話が3つくらいに分散してしまったり。

グループ数は少なくなつてよかった。でも、1つ1つのグループが大きいことによって、難しさもあった、ということだと思います。サブファシリテーターとしてのスキルの問題は置いておいて、そういうこともあったのかなと思いました。

(木村) 昨年度も、最後は結構作業化していたと思います。作業化するのは悪いことではないのですけれども。最初は、普通に話し合うよりもこうやって話したほうが効率的なのかなと思いつつながら、慣れてくると、ゲームをしているような感覚になってしまって、これで果たして十分に話せているのかなという疑問を持ち始める、というのがあるのだと思います。

もう少し長い期間やるのだったら、1回くらい、ノールールでやるというのもひとつの手かもしれないですね。本当は、お茶飲み場でそれをやらしてもらえればと思うのですけれども。ただ、その場合、何もまとまらないし、記録もできないし、大変なので、やらないですけれども。

—— 例えば、物足りない、話し合う時間が足りなかったとおっしゃる方がいるということは、全体のフォーラムの時間をもう少し長くすることは可能なのか、それは受け入れられるのか、そういうことも聞いてみたい感じもしますね。

(木村) なるほど。それはインタビューで聞いてみましょう。

(竹中) 昨年度も、インタビューで一応それは聞いているじゃないですか。時間が足りなかったと言う人に対して、では、フォーラム全体の時間設定はどうか、と聞くと、「いや、あれ以上長いと、ちょっと」という回答が返ってくるのです。

(木村) そう、だから、もっと薄くしろということなのですが、薄くすると、回数が必要になってくる。

回数については、終わってみると、まだあってもいいという人も結構いるのですけれども、応募時に「7回で」と言われると…。

—— そうですね。

(前参加者) 初めて見たときは、「え？ 5回もあるの？」と思うと思います。そして、実際に参加してみると、どんどん話が深まっていくので、時間が足りないと感じていく。そして、最後のほうでは、もっとやってほしいという方向になりました。

(木村) たぶんそういう感覚なのだろうなと思います。だから、最初は3回くらいと言ったほうがいいのでしょうか。でも、そうすると、今度は短すぎて、

—— 名前も覚えられないですね。

(木村) ええ、それで終わってしまいますからね。

午前午後という、いやでしょうし。疲れてしまいますよね。

(前参加者) 疲れますよね。

(木村) はい。分かりました。

あと、第 5 回のスケジュールは少し変えているので、後ほどご意見をいただきたいと思っています。簡単に言うと、グループワーク 120 分と書いてあるように、長い時間を取っています。

そうしたら、次の方、どうぞ。

—— 分刻みでやるというのは、サブファシリテーターをしている私も大変だと思うので、参加者の方にも、せかされているとか、時間が足りないという印象はあったのかもしれないなと思います。

それから、前はサブファシリテーターが 3 人固まって座ったのですが、あの広さでは、1 人はファシリテーターの反対側にいて、全体を見るというスタンスが必要だったのではないかと思います。私は 3 人の真ん中にいたのですが、自分が違うところにいたほうが、全体が見られたなど。あとで非常に反省しました。3 人でやる場合は、明確に役割分担を決めて、1 人は全体を見るという役割をすべきだなと思います。前回はそうすけれども、前々回は、参与観察をされていた方から非常にいいアドバイスをいただいて、助かりました。そういう意味では、冷静に第三者から見る目が有効だなと思いました。

それから、A 班も B 班もコストの話が非常に多かったのですけれども、前回、私は A 班だったのですが、専門家の方が作ってくれた資料を、現場ではとても見る暇もなく、「何ページを見てください」といろいろ説明されるのですが、全然意味が分からず、読む時間もなかったのですが、今日ここに来るときにじっくり見て、非常に参考になりました。サブファシリテーターとしては、まだ多々ございますが、以上です。

—— アンケートの中に、「まったく違うことを前提とするという姿勢は重要だと改めて思った」とか、「私が思っていなかった原発の必要、不必要の理由をたくさん聞くことができた」とか、気づきがたくさんあって、ああ、そうなんだとうれしく読みました。

サブファシリテーターの立場としては、すみません、気配りのところはまだ気づいていないことがたくさんあるみたいなので、皆さんのほうから教えていただきたいぐらいなのですが、私たちが、こうしたらどうですかと言ったことも、結構されなかったことがあったのです。ですから、参加者の方の、自分たちでこうやりたい、という意思を感じました。そういう意思は、たぶん最初から持っておられたのでしょうかけれども、何回目くらいの親

しきになったら、表に出てくるのか。まあ、メンバーによっても違うかもしれませんが、自分たちでやりたいとか、自分たちでこうしたいという意思が出てくるときがあって、時間の制限はあるのですけれども、発表の時間配分がうまくいったりしているのですね。それを我々がどうつかまえるか、どのようにルール化するのか。難しいなと思いましたけれども、(ルールに)入れたらいいのではないかと思います。

あと、日本人ってやっぱりそうなのかなと思うのですけれども、きちんと役割を振ると、最初からその気になって、そういう目で参加してくれるのですね。ところが、何も役割がない方は、例えばグルーピングのときも、皆さんで協力してやってくださいねと言うと、ファシリテーターの人と一部の人だけが立って、他の人は、まあ、少し口は挟むのですけれども、なさらないのですよ。だから、もう少し細かく役割を振って、訓練みたいなものを行えば駄目なのかなと思ってしまいましたね。それも善し悪しですけれども。そんなところまで手とり足とりしなくてもいいかなとは思っているのですけれども。意外と、他にも役割があってもいいかなと思いました。

(木村) フォーラムを、ひとつのメディアトレーニングじゃないですけれども、そういう形に位置づけていったときは、いろいろな役割を振って、順番にやってみる、というトレーニング方法はあり得ますね。

—— ロールプレイングですよ。

(木村) ロールプレイングでやる。まあ、それは今回の研究とは別の話ですけれども、どこかでできるかもしれない。

では、次の方。

—— サブファシリテーターが出すぎてしまったということについて、どうしたらいいのかなって考えていました。反省会の中でも話がありましたが、参加者の特徴を捉えて、人を見て対応を変えるというのが重要だなと思います。フォーラムが始まる前に、自分の中だけで、ああしよう、こうしようイメージしてしまって、カチカチになっている部分があったのですけれども、それをニュートラルにして、来た人を見ながら、臨機応変に自然な流れで、その場その場で柔軟に考えていく、人を見て、その後どうなっていくのだろうかというのをその場でイメージしていく、というスキルをつけなければいけないなと思いました。人の特徴を捉えるというのがあまり得意ではないので、そういうことをもっと意識していかなければいけないなと思いました。

あと、ファシリテーターは、人によるかもしれないのですけれども、慣れてきた方もいると思います。1回流れをつかめば、ちゃんとできる人が何人かいらっしゃるだろうと思います。だから、サブファシリテーターとしては、流れを皆さんにフォローしなきゃと強く

思わないほうが、出すぎないのかなと。もう参加者の方は慣れていて、自分たちでできるんだと信用するベースでやったほうがいいのかと感じました。

あと、今回は、フォーラムが始まる前に、ファシリテーターの人に、流れはこうですよと説明をしたのですね。そうしたら、ちゃんと理解されて進行していらっしやった。まあ、その方がたまたま早く来ていただいたからという前提はあるのですけれども。座った方に、役割は何ですかと聞いておいて、役割を確認してもらうというのも、意識を持ってもらうという意味でいいと思います。それから、少なくともファシリテーターにだけは、先にこうですと言っておくと、ファシリテーターの方もイメージしてから取り組んでくれると思うので、始まる前に一足先に説明するのもいいのかなと思いました。

あとは、せかされる、急いでと言われた印象が強かったという方が何人かいらっしやるので、前回見ている、もう皆さんは時間の意識が十分にあると思ったので、あまり時間時間とこちらから言わないほうがいいのかなと思いました。1人1分も相当できていたので、どうしても話が長くなってしまうときに、その人も分かっているけれども止められないという場合があると思うので、もう終わりですと言うのではなくて、今はこういう議論だからこういう話をしましょう、とか、こういうふうに話しましょう、というようなアドバイスの、話を止めるのではなくて、こう話してくださいみたいな言い方をしたほうがいいのかなと思いました。以上です。

(木村) 事前にファシリテーターに説明しておくというのはいいと思うのですけれども、問題は、くじ引きだということですね。

—— それと、遅れてくる方がいることですね。

—— (説明を受けたファシリテーターの方は) 一生懸命勉強していましたよね。覚悟してやっている感じでした。

(木村) では、次の方。

—— 1つは、時間が足りないというコメントがたくさん出ていたのは、今回はブレイクストーミングではなくて、ディベート形式だったでしょう。必要か、必要でないかというディベート形式だったので、話が盛り上がるのですね。だから、こういうディベート形式のときは、設定時間がもう少しあったほうがよかったかなと思います。今回は 120 分にされているようなので、面白いかもしれませんね。

2つ目は、Q8に、「学者や専門家の話を聴いてみたい」というコメントがあるのですが、じゃあ、グループにいた人たちは何だったのだろうか。面白いなと思いました。この方は、学会の参加者を専門家と認めていないのだなと。

それで、中身の話で1つだけ申し上げると、私も専門家の端くれなのですけれども、(専門家というのは、)原子力は安全性さえ理解してもらえれば、誰でも、「安全になったのだったら使いましょうね」と言ってくれると思込んでいる。ところが、今回の議論を聞いていると、安全性より必要性のほうが盛り上がっている。原子力がない状態でこれだけ普通の生活が送れているということで、安全性はもうはるかかなたに危険だというイメージが強いせいもあるのでしょうかけれども、必要性を改めてきちんと、本当の専門家が、情報を国民に向けて出さないといけないなど。安全になりました、さあ再稼働、そうはならないなど。

この前、NHKのニュースで、木村先生がそれに近いコメントをされていましたね。木村先生のコメントは、そういう意味で、まさにその通りだと思います。安全です、さあ動かしましょう、ではない。まず、なぜ原子力が必要なのか、なぜ今動かさなければいけないのか、というところの説明を、規制委員会側だけではなくて、資源エネルギー庁とか、経済産業省とか、あるいは電力会社がするべきだと思います。で、それを今度学会誌に書くことにしまして、今、執筆中です。

—— 何月号に載るのですか？

—— 先週末が締切だったので、2か月後ですね。

それが、私がこの前聞いていて、つくづく、なるほどと思った点です。もっと安全性の話が出るかと思ったけれども、そういう話はほとんど出なくて、経済性とか、そういうほうに皆さんの議論が進行しているのを見て、大変興味深く聞かせていただきました。以上です。

(木村) ありがとうございます。では、次の方。

—— 前回は、A班もB班もコストのほうに話が流れたのですけれども、去年はどうだったかなと思出すと、それほどなかった気もして。そういう意味では、専門家の方の資料に引っ張られたのか、それとも、本当に興味がそこにあったのか、とても興味があります。

そういう意味では、Q3に、専門家がコストの話を新しく気づいた点とか発見した点に挙げているのですけれども、こういうことを専門家が考えたということだけでも、専門家にとってはちょっとした変化なのだろうなと思っています。大きな意見は変わらないけれども、これもひとつの変化だよなと思いつながら。という感想です。

(木村) でも、コストの話は両方の班で出ていたのですよ。

—— そうなのですよ。B班でもコストの話が出て、びっくりしました。

(木村) A班は、「安全」の話が1つのグループで出ているのだけれども、B班では出ていないのです。この辺は何がきっかけだったのか、というのが気になります。

もしかすると、反対する人は、安全性を突っ込みたいので、そこが議論の中心になってくるのだけれども、フラットにどうしたらいいのだろうかと考えている人は、必要性が気になるのかもしれない。だからこそ、コストの話になる。まあ、事例が少ないので、何とも言えないのですけれども、そういう印象は受けました。必ずしも、専門家の資料があったからコストの話になったわけではない気がします。

—— なるほど。

—— 毎回、いろいろなところで、どなたかがコストの話を出すのですよ。ただ、コストの情報がないので、そこから話がつながらないのですよ。でも、前は、専門家の方がいたので、こういう計算になっていて、まだこれが入っていませんとか、とても難しい問題ですという情報提供があったから、結構話が続きましたね。

(木村) でも、かなり曖昧な話でしたね。

—— 曖昧でした。どちらも曖昧なのですよ。

(木村) 本当はそういう情報を、国がまずはきっちり出せと。まずそれがほしいですよ。たたき台があれば、これはどういう試算をしているのかといろいろ突っ込むことができるのだけど。たたき台がないと、何の議論もできないなど。

—— コストの計算条件が分からないから、結果だけ見ても、皆、「本当？」って思っていると思うのですよ。

—— でも、A班では、基準を明らかにしてほしいという意見がありました。

—— と言うけれども、じゃあ、「本当？」っていう感じですよ。

—— 「真実の情報」とか、「コストのものさし」とか、いろいろな話が出てきたのですが、ある専門家の方から、結局どこを見ても分からないから、電力会社の会計報告を見るといいう話があったのです。そうすると、実際にかかったお金、要するに今回事故が起こって、補償にどのくらいかかっているとか、あと、これからまだまだお金が出ていくわけじゃな

いですか。市民が知りたいのは、安全なときにどのくらいのお金がかかっているか、ではなくて、今回みたいに事故が起こってしまったときの補償とか、避難している人たちの生活の補償に支払われていくお金とか、そういうことはコストの中に含まれているのですか、ということなのですよね。そういう話が出るきっかけにはなったので、よかったかなとは思っているのですけれども。

(木村) 本当は、国が原賠法の枠組みで真面目に対応すればいいのに、とは思いますが。まあ、それは脱線するので置いておいて。

では、次の方、どうぞ。少し時間も押しているので、早く行きましょう。

—— 録音データを聞いていて、気をつけたほうがいいなと思うところだけ話したいと思います。あ、その前に、先ほどのコストの話は、どちらの班も市民の質問がきっかけだった気がします。

私が気をつけたほうがいいなと思うのは、反省会のときも話があった、人を見て対応を変えるべきというところですね。話が分断するきっかけになりやすい、隣の人にボソボソ話す人が何人かいらっしゃるようなので、注意していただけるとありがたいです。

あとは、聞いていて結構気になったので、あえて一言だけ申し上げますと、反省会メモに「ファシリテーターに対する助言は端的なほうが望ましい」とありますが、これは端的ではないなと思った例文を読み上げますね。

「前半のお時間がそろそろ終わりになりますので」。

そこで言葉が終わっている方がいました。分かる人はこれでも分かると思いますけれども、「だから、何をすればいいか」というところまで言い切ったほうが、親切かなと思いました。ふわふわした、優しい表現になりすぎている場合は、かえって不親切なのかなと思いました。以上です。

(木村) はい。では、次の方、どうぞ。

—— やはり、時間がないというご意見が多いですね。これはずっと課題だと思うのですけれども。まあ、第5回は120分ですか。少し思いきり言えるのではないかという気がします。

先ほどコストの話が出ましたけれども、このアンケートの中で、コストのことを言っているのは専門家だけで、一般の人はコストのことを書いていないので、あれほど議論したけれども、一般の人はコストのことがあまり気持ちに残っていないのだな、と思いました。

それと、先ほど、サブファシリテーターが3人並んでいると、という話がありましたよね。私はカメラを撮っていましたが、カメラアングルから見たら、皆で立ち上がって、こういうふうにはやっていたのです。あれは、前の人から見たら、プレッシャーになったので

はないかという感じがするので、できたら、3人がこういうふうにするのは避けたほうがいいと思います。今回はテーブルが小さくなるからそれはなくなると思うのですけれども。以上です。

(木村) はい。では、次の方、どうぞ。

(前参加者) 全体を見て、市民の人の意見がかなり深いところまで来ているかなと思います。それはすごくいいことだと思います。

それから、これはフォーラムに限らず、私たちが日ごろ感じることなのですけれども、Q3の市民の意見で、「十人十色、1人1人意見が違い、まとめるのに大変であった」というものがありますね。我々が生活している中でいつも感じていることが、でも、こういう中でこういうことを感じられたというのは、ある意味大きいのではないかと思います。それもフォーラムの目的のひとつかなと。人1人を大事に受け止めていくという考えができてくれば、それはいい結果につながるかなと感じました。

(木村) はい。では、次の方、どうぞ。

—— アンケートのQ1の市民の意見を見ていると、原発が必要かどうかということに関する本質な議論ができてよかった、そのところで市民は許容している感じがしました。

専門家のほうは、コストのことが中心になっていますけれども、「発電評価のものさしを作るというのは自分になかった発想であり」という感想もありますね。

それから、悲しいなと思ったのは、Q4で、コミュニケーションのステップの「異なることを受け入れる」を達成できた人が、市民のほうは1人増えているのに、専門家は1人減っている。まあ、全体の人数の増減があるので、何とも分からないところですが。

(木村) これはインタビューで聞いてみないと分からないですね。本当に、お互いにもう受け入れたくないのだと思いますよ。インタビューでこの辺は聞こうと思っていますけれども。

では、すみません、時間がないですけれども、さくっと思います。

—— はい。皆さんにいろいろ言っていたので、自分が気づいたところだけ。「周りの人は話し合い、フォーラム参加が上手に見える。自分が下手と自覚はできた」と書いてあったのが、すごく気になりました。一体これはどういうことなのかと思いました。

あと、時間が足りないという意見があるのですけれども、時間をたくさん取ったら、最後のところは収まるのか。取ったら取っただけ、時間がいつも足りなくなってしまうのか。その辺は分からないなと思いました。以上です。

(木村) はい。では、次の方、どうぞ。

—— Q3 の市民の意見で、「2つの見方を手に入れることで、自分の意見に対し、疑問を投げかける機会となりました」というのは、市民としての深まりを感じさせる感想だと思います。

一方で、Q8 の専門家の感想の中で、「エネルギー問題の難しさを市民の方々に感じていただいたようでよかった」、やっぱり、上から目線というのか、なかなか変わらないというのか、専門家はそこまで行くのは難しいのかなと思いました。

あと、特に若い専門家と市民の間に、お茶飲み場で話し合っているメンバーだったということもあると思うのですが、結構信頼関係ができていて、話し合いとか役割分担を、お互いの納得の中でやっている。その中で、それ以外の参加者の方たちもいきいきと参加されていたな、という印象でした。以上です。

(木村) はい。すみません、結局時間はいつも通り使ってしまったけれども、ここで10分休憩して、14時40分から再開したいと思います。

休み時間中に、暇があったら、これらのパンフレットを見てみてください。次回、これを配るかどうかを悩んでいますので、見ていただいて、後半の議論でご意見をいただきたいと思います。

そうしたら、40分まで休憩します。

2. 第5回フォーラムについて

(木村) では、後半に入りたいと思います。

第5回のフォーラム、最終回のフォーラムですけれども、まずはF7-7、グループワークの進め方をご覧ください。

テーマは、「地球温暖化と私たちの暮らしの関わりとは？」になりました。

アンケートの結果などから、時間が足りないとずっと言われ続けたので、もう質問への回答を作るグループワークはやめて、それは発表の中でやろうということで、残りの時間は全部話し合ってもらったらどうだろうということで、逆算して、120分取ることにしました。まあ、途中で10分休憩が入るので、実質110分です。

段取りですが、いきなり「私たちの暮らしの関わりとは？」と聞いても何も出てこないのではないかとということで、皆があまり考えたことがなさそうなテーマを最初に聞いています。「地球温暖化が進むと、私たちは何が困るのか?」。地球温暖化に対応しないといけない、いけないと言いながら、遠い世界のように思っているのは、おそらくこれが原因だ

ろうと思うのです。だから、私たちは何が困るのかということ整理する機会を持つと、自分はどんな対応をしたらいいのかということを考えやすいのではないかとということで、前半はこれを話し合おうと思っています。

進め方はいつも通りです。1番、3分程度時間を区切って、付箋に書く。

2番、読み上げて、模造紙に貼っていく。ここは少し変えました。「1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見をグルーピングするなどして、どのような意見が出ているかをみんなで確認しましょう」ということで、単に貼っていくのではなくて、貼りながらグルーピングをして、どんな意見があるか確認するというのを、この段階でやってもらいます。ここまでで10分です。

3番、意見に対して、質問・コメントを自由に言っていく。サブファシリテーターがキーワードを付箋に書き出して、発言者に確認しながら貼っていく。ここで35分取っています。

4番、貼られた意見をグルーピングして、それぞれに一言でタイトルをつけましょう。その後、それぞれの意見やまとまりについて、「見える化」しましょう。ここに10分取っています。ここまでで55分になります。

ここで、模造紙をホワイトボードに貼って、新しい模造紙を準備します。10分の休憩を取りましょう。ファシリテーターが、休憩の開始と終了を宣言してください。ファシリテーターも交代します。前半と後半でファシリテーターが2名、別の人になります。

後半は、何が困るのかを整理したところで、「地球温暖化の防止のために、私たちが自分たちの暮らしの中ですべき・できること・やってみようと思うことは？」というテーマで話し合います。この文章がこれでいいかも皆さんから意見を聞きたいですけども。

進め方は前半と一緒にですね。最初に意見を書いて、模造紙に貼っていく。意見交換が35分。最後にグルーピングをして、「見える化」をするのが10分ということです。合計55分です。

休憩を10分取っているのだから、合わせて120分になるということになります。

ファシリテーターは前半、後半で各1名、発表者2名はあらかじめ決められた人になります。グループワーク終了5分前に、総合ファシリテーターがアナウンスします。発表は7分です。前半、後半について、それぞれ「盛り上がった話題」「見える化の結果」を中心に発表しましょう。ということになっています。

そして、今、パンフレットを皆さんに回覧してもらっていますが、このグループワークのやり方だと、これを読んでいる暇はないのですね。だから、パンフレットをどう扱うかについて、意見を聞きたいなと思っています。

今回は、原子力の話ではないので、最初に皆さんに、今日は専門家、市民はありません、基本的には皆市民です、ということを宣言して、進めていこうとは思っていますけれども。

なんとなく皆よく分かっているような気分になっているので、何もなくても進められる

かなという気もしないでもないのですが、まったく何も資料がないと、感想を言うだけになっちゃうかなとも思っていて、どうしたものかなと思っているのですね。

これから、参加者の皆さんにはリマインダーメールを送るのですが、そのときに、「今回は地球温暖化についてお話することになりました。つきましては、この辺に関連の資料がありますので、もしお時間があれば、ざっと目を通していらしてください」という形で、URLをお知らせする。あとは、当日参考資料として添付しておく。というくらいがいいのかなと思っているのですが、この辺について、皆さんのご意見をお聞きしたいというのが1点目。

2点目は、グループワークの進め方とか、サブテーマについて、いかがでしょうか、ということ。

ということで、自由にご意見をお願いします。

—— 後半のほうで、温暖化と出ると、やはり原子力発電がすぐに話題になるかどうか。専門家からそれが出てくるかどうか、ちょっと気になったのですけれども。

(木村) 出てくると、何が困るのですか？

—— 専門家がそこに話題を引きつけたときに、うまく話題が回っていくかどうかがよく分からない。たぶん専門家は自分の専門に話を引きつけてくるから、それに市民がどういうふうに対抗していくかなと。

(木村) 「私は別に原発はできないけど」と言うのではないのでしょうか。

—— 「自分たちの暮らしの中でできること」だから。

—— でも、原子力発電は推進すべき、という意見があってもいいと思うのです。一方で、私はなるべく車に乗らないようにします、とか。そういう意見がいくつか出てくるわけでしょう。

(前参加者) そうですよ。節電をしていますとか、いろいろ出てくるわけですよ。

—— グリーン電力というものがあるのですよ。再生可能エネルギーを増やしたほうが地球温暖化防止に役に立つと思うから、グリーン電力を買いますとあって、東京電力にプラズアルファを払う。私は、少くく高くて、再生可能エネルギーが大切だと思うので、ということで。それは、「私たちの暮らしの中でできること」なのですよ。

—— おそらく、電力を選びたいという意見が出てきて、その中で原子力か、自然エネルギーかという話になるのでしょうか。

—— ところが、再生可能、再生可能と叫ぶ割には、グリーン電力は売れていない。

—— 買い方が分からない。

(木村) そんな仕組みがあるということをおそらく知らないのでしょう。結局、電力会社との接点なんて、紙を入れていく人くらいしかないから。どこで何をどうしたらそうなるのかは分からない。

—— でも、いろいろな問題がありますよね。送電の容量がいっぱいだから、あなたのところは買わないよ、とか。

—— そうですね。

—— そういうことも話題に出るかもしれない。

—— だから、あまり心配しなくても大丈夫じゃないですか。

—— 心配なのではなくて、「原子カムラの境界を越える」というタイトルで皆さんこれに応募してきているので、そこが盛り上がることを専門家が期待するかもしれない、ということですよ。

(木村) そこは、一応、私が最初に宣言するつもりです。今日は、原子力の話ではないので、専門家と市民ではなくて、全員市民という立場で、地球温暖化と自分たちの暮らしの関わりがどうなっているかを考えよう、という企画です。というふうに宣言するつもりです。だから、別に原子力の専門家だから、とか、そういうことをことさらに強調するつもりはありません。ただ、附箋はもったいないので、そのまま赤と青にしますけど。

—— そこを強調しないと、確かに、学会側の方は、自分たちは学会員として参加しているので、どうしたら原子力につながるのだらうと思って、一生懸命考えてしまいますよね。5番のテーマから原子力につなげようというのは無理だから、学会の方は肩に力を入れる必要はありませんよと宣言する必要があると思います。

—— 「皆さんが市民です」ということですね。

(木村)　そういうことです。だから、第1回か第2回で、原子力という分野で見れば、あなたたちは専門家だと。他のところでは市民ですね、という話が出たと思います。そうは言わないですけども、そういう意味では、今日は市民も専門家もなく、市民として話し合っていたきたい、と話そうと思います。専門家という立場を変えてみたときに、果たして今までの専門家がどのような変わり方をするのか、というのがひとつの狙いなのです。

(前参加者)　去年、専門家の方が、休憩時間に、「実は節電しています」とポロッと話されたんですね。そういうことでもいいのではないかと思うのです。その感覚で話をしていけばいいのではないかと思いますけど。

(木村)　そういうことが、この表題ではできないという懸念なのか。別にそれはできるということなのか。この表題でいいですかというのは、そういうところを聞きたいということです。

—— サブテーマが、「私たち」や「自分たち」になっていて、「私」とか「自分」になっていないのは、意味があるのですか？ 話し合いのルールとして、1人の参加者として、「私は」という一人称で話してくださいと言っているのと、テーマが「私たちは何が困るのか」「私たちが自分たちの暮らしの中で」というのは、あまり差がないですか？

(木村)　「私」にしますか？ これは、テーマの名前が「地球温暖化と私たちの暮らしの関わりとは？」だったからです。だから「私」にしなかったけど、「私」のほうがいいですか？

—— でも、「地球温暖化が進むと私は何が困るのか？」って、なんとなく変ですよ。

—— そうですね。だからそうなっているのかなと思ったのだけど。

—— 何も困らないという意見も出てきていいわけですね。

—— 変なアリが北上しているのでしょう。

(木村)　そう、地域が熱帯化してくるから、せつかく日本は毒虫がないのに、毒虫がはびこってくるといやだなとは思いました。

—— マラリアが流行るとか。

—— 洪水が頻繁に起きるとか。

—— 氷河期に向かっているという意見もあるし。

—— 実感として、はっきりとした四季がなくなってきていますよね。いわゆる、心地よい季節が短くなっている。

—— ええと、ちょっと話を戻すと、「自分たち」という言い方で、自分事として受け入れられるのか、ということですね。

—— そうです。ニュアンスの問題なのですが。

—— 5番のタイトルを変えたらどうですか。

(木村) 1番のタイトルは、「私は」にすると変だから、1番はそのままでいいとして、5番は変えたほうがよさそうですね。

—— 「地球温暖化の防止のために、1人1人が暮らしの中ですべきこと・できること」にすればいいのではないですか。

—— あるいは、「自分の暮らしの中で」。

(木村) 「1人1人」にしますか？ 「自分」を入れますか？

たぶん、「1人1人が」にすると、「私は何もしないけど」という意見は出てこなくなると思うのです。

—— でも、「私はやらないけれども、1人1人がこういうことをやればいいんじゃないの」というような、他人事みたいな意見は出てくるかもしれません。だから、「私は」のほうがいいと思います。本当にあなたはやりますか？ というところまで突っ込んだほうがいいのかなど。

(木村) そうですね。最初は「私たちが自分たちの暮らしの中ですべきことは？」にしていたのですが、これだときれいごとを言えば終わりますよね、という指摘があったので、「できること・やってみようと思うこと」を追加したのです。だから、その意図を汲む

のだったら、「私が自分の暮らしの中ですべきこと・できること・やってみようと思うことは？」でしょうか。

—— 「自分の」は要りますか？

—— 私は、逆に、「私たち」に引っかかる部分があるなら、「私たち」は取って、「自分の暮らしの中で」という個人な感じにしたらどうかと思いますが。「自分の暮らしの中で」。

—— 私もそれがいいと思います。

(木村) では、「自分の暮らしの中で」にしましょうか。

—— それで、1番のほうの、「私たちは何が困るのか？」のほうは、このままでいいと思うのですけれども、しかし話し合いの中では、「私たち皆が困るでしょう」みたいなことは言わないということで、あくまで発言としては「私はこう思う」という言い方でやってくださいね、というルールを貫くということですね？

(木村) そうです。「私は」で言ってもらいます。それはコミュニケーションのルールなので。

—— 「聞こえますか？ 地球からの SOS」のパンフレットに答えがたくさん載っていますね。

(木村) そうなのですよ。これを出してしまうと、全部答えが載っているという。

—— このパンフレットは子供向けと大人向けになっているのですね。

(木村) ええ、両方あるのです。

こちらのパンフレットはデータ集のような感じなので、こちらを渡して、考えてもらうのか。それとも、すでにいろいろ考えられていますよということまで見せて考えてもらうのか。どちらがいいのかなと思ったのです。

要は、何もアイデアが出てこなかったときに、ああ、こういうこともあるのかというヒントにはなるかなと思って、渡してもいいかなとも思ったのですけれども。どうでしょうか。

—— でも、あまり案を出してしまうと、自分で考えなくなって、ちょっとつまらない気

がするのですけれども。

(木村) そうですね。

—— 何も出てこなかったら、それはそれで面白いですね。現実はこのなか、って。

—— 先生が最初におっしゃったみたいに、ホームページのアドレスを張り付けておけば、勉強したいと思う人は、前もってそれを見て勉強してくるかもしれない。だけど、あまり熱心ではない人や、本当に物理的に忙しくてできなかった人もいて、資料を見ない状態で参加するかもしれない。(当日は) それでいいと思うのですよ。

だけど、話し合いでいろいろな話が出てきて、予備知識も何もなかった人が、ああ、やっぱり勉強が足りなかったなとか、もっと知りたいなと思ったときに、こういう資料があるととてもいいなと思います。

—— でも、これを先に見てしまったら、面白くないですね。

(前参加者) 全部答えじゃないですか。

—— そうですね。だから、これは後でいいと思います。

(前参加者) 本当は、ここに載っているようなことが(意見として)出てくればいいですね。

(木村) この環境省のパンフレットはぶ厚いかなと思って、こちらも用意したのですが。こちらは地球温暖化ではなくて、気候変動の話に特化して書いているので、全部ではないのですけれども。

—— 3種類全部出すのですか？

(木村) いや、どうするかをこれから決めようと思っています。

—— 「聞こえますか？ 地球からのSOS」はやめましょうよ。

(木村) これはよくできているパンフレットだと思うので、逆に、やめようかなと。

—— それは、お土産に、

—— すみません、先ほどのグリーン電力ですが、法人にしか売っていませんでした。個人は買えませんでした。

—— でも、最後にお土産で渡すのも、恣意的でしょうか？

(木村) 最初に渡すと、たぶん見てしまうと思います。かといって、終わってから配ったら、それこそ変なイメージです。だから、配るのだったら最初に配らないといけないのです。

だけど、特にこちらの子供向けのほうは、分かりやすすぎるのですよ。グループワークのときに、「ああ、これに書いてあった」って誰かが言い出したら、皆で見えてしまう。

—— 議論にならなくなってしまうですね。自分で考えることが大事ですよ。

(木村) では、「聞こえますか？ 地球からの SOS」は出さないということで。

こちらは2つとも必要ですか？ これだけでいいですか？

—— どちらかでいいですよ。

—— こちらでいいと思います。ちょっと重たいように見えますけれども、本当に仕入れていこうと思う人なら見ますよ。見ない人はどちらにせよ見ないからいいのではないのでしょうか。

(木村) では、こちらを配布資料にすると。で、参加者にはあらかじめメールで URL をお知らせして、見ておいてもらう。そういうことにしましょうか。まあ、他に調べたい人は、「地球温暖化」で調べればいくらでも出てくるので。

—— それは仕方がないですよ。

(木村) では、資料のほうは、こちらのパンフレット（環境省）を人数分印刷ということになります。

資料のほうはそれでいいですが、進め方はどうでしょうか？ これで大丈夫そうですか？

—— 発表者は2名と書いてありますよね。前回、ほとんど1人がしゃべって、2人目は時間がないときがありましたよね。真ん中で切るようなことをしないと、全部1人でしゃべ

る人がいるので、少しアレンジしないといけないのではないかと思います。

(木村) 今回は、そういうのを見て、タイムキーパーが終了 2 分前に合図するようにしているのですよ。発表は 7 分なので、5 分でタイムキーパーを入れて、と思っっていますが、真ん中のほうがいいですか？ 基本的には、前半半分、後半半分でお願いしたいと思っています。7 分ではなくて、6 分のほうがいいですか？ 3 分、3 分で。

—— 4 分、3 分でいいんじゃないですか。

(木村) たぶん、後半のほうが時間がかかると思うのですよ。だけど、3 分でお願いしますといっても、どうせ 3 分では終わらないので、4 分経ったときに合図すると、それで、ああ、もう 4 分になってしまったということで終わりにするか。発表は 6 分にしておいて、3 分ずつで切って、1 分くらい延長することを予想するか、です。

—— そのほうがよくないですか。

(木村) では、6 分にしましょう。合図は 3 分と 6 分です。

—— あと、タイムキーパーは遠慮しなくていいと思うのですよ。

—— 特に、話している人はよく分からないから。

(前参加者) 目の前まで持って行って構わないですか？

—— それと、目の端でも、動きが見えるとハッとするのは。だから、そっと出すのではなくて、パッと出すと、パッと視線が来て、見るのです。

(前参加者) つい、邪魔にならないようにというのがあるので。

—— でも、見てもらわないといけないので。ハッとさせてあげてください。

(木村) では、6 分で、タイムキーパーは 3 分にしましょう。今回は各グループ 10 分の持ち時間なので、質疑応答時間は 4 分です。まあ、発表者 2 名で、1 人しか話さないというのは、たぶんもうないと思うのですけれども。

—— サブファシリテーターが、発表の前に 2 人にちゃんと説明してあげたらいいんじゃない

ないですか。3分ずつ公平に時間を使いましょう、とか。

—— ええと、発表は3分、3分で、質疑が3分ですか？

(木村) 質疑は4分ですけれども、実質3分くらいになると思います。1グループの持ち時間が10分です。

で、今回は、おそらく後半に時間がかかるのですね。特に、最後にお問い合わせが結構ありますので、延びる可能性があるので、早く終わったら早く終わったでいいと思っているところはあります。

—— 最初の意見の書き出しの3分が短いという意見もアンケートの中にもありましたけれども。

(木村) どうも、質問に対する回答は3分だと短いというイメージですね。だから、最初の3分はそうでもないみたいです。思いつくものはパパッと書けるのだけど、難しい質問の場合は書けないということだと思うので。今回は、思いついたものを書くというスタイルだから、3分にしようと思っています。

ということで、進め方はオーソドックスで、単純に言えば2回グループワークをするみたいなものです。2回分を1回のプレゼンで終わりにして、質疑応答を簡単にやって、全体で共有して終わると。

—— (温暖化すると)北海道のお米がおいしくなるのです。

(木村) 北海道でお米がいっぱい作れるようになると、日本の食糧自給率が少し上がるみたいです。

—— 友達が北海道にいるのですが、昔は、北海道であまりお米が食べられなかったらしいです。今は、北海道はお米がたくさん採れて、おいしいそうです。今はたぶん日本で一番採れるんじゃないですか。温暖化というのは、北のほうではいいことみたいですね。

—— そういう議論になればしめたものですね。

—— 昔は、青森は温暖な地域で、豊かだったのです。三内丸山遺跡。

—— 栗ができていたのですよね。

—— そうです。だから、温暖化問題というのは今だけの問題なのか。周期的にしょっちゅう起きている。シベリアの凍土の中から、ライオンや象の死骸が出てくる。昔は気候がだいぶ違ったのですね。そうになっていいかどうか。

—— いいかどうかは別ですけどね。

(木村) そういう話が出てくるといいですね。

—— で、そのときに、意見が、要するに議論にならないと。主張のぶつかり合いにならないと。

(木村) そうなのですよ。ちょっと思ったのは、温暖化は実は起こっていないみたいな意見が出た場合に、このグループワークは成立するのかどうか。でも、自由な意見交換ならできるかなと思って、その時間を長くしているのですけれども。

これは地球温暖化が進むことが前提で書かれているけれども、そもそも進んでいないと思っている人がどう思うか。そういう意見は自由時間に言ってもらおうかなと思っているのですが。

—— COP という会議が、世界中から 1 万人も集まって、毎年開かれていますよね。もう 15 年くらいやっている。初期は、まさに温暖化なんて起きていないのではないかという人と、起きているという人の意見のぶつかり合いでした。もうそれは 10 年くらいで一応卒業して、起きているという科学的な結論を出して。で、今は、それじゃどうしようかという議論になっているわけだけど。その責任の分担で、この 4、5 年は、先進国と途上国で綱引きが続いている。

(木村) そうしたら、サブファシリテーターの方々には、もしかすると、先ほど私が言ったような質問があると思うのですよ。そのときには、「地球温暖化が進んだら」という前提で書いてくださいと言ってください。実は進んでいないとか、困らないとか、そういう意見は自由に意見を言うところでお話してくださいというふうにフォローしてもらえますか。そうすれば話は進むかなと思いますので、お願いします。

では、この方針でよろしいでしょうか。何か、進めるにあたって、ここが分からないとか、ありますか？

ちなみに、F7-9 に模造紙案があります。今回は、「地球温暖化と私たちの暮らしの関わりとは？」と書くと、スペースがなくなると思って、サブテーマしか書いていないのですけれども、いいですか？

—— サブテーマだけのほうがいいと思います。

(木村) スペースも取れるし。

—— それもあるし、前回、2つのテーマを並列して書いていましたよね。それで、どちらについて書くのですか、という要らぬ混乱があったので、やるべきことを1つだけ書いておいたほうが、混乱がないと思います。

(木村) はい。なので、そうしたいと思いますので、よろしくお願いします。

—— 模造紙は、今まではこういう形に、みたいなものがあったけれども、今回はないのですか？

(木村) 今回はないです。今回は特に何か対立して見せる構造とかはないので、参加者に自由に作ってもらえばいいと思います。

よろしいでしょうか。では、次回のグループワークについてはそんな感じです。

次は、全体のスケジュールを確認したいと思います。F7-4をご覧ください。

いつも通り11時に集合して、30分間最終打ち合わせをしたいと思います。その後、会場準備をします。今回は3グループですので、いつもの通りの配置になります。

12時半から受付開始になります。

フォーラム開始は13時。挨拶があつて、前回の振り返りがあります。前回の振り返りなのですが、まだ資料を作っていませんが、第4回の模造紙まとめだけでいいですか？ それとも、全部の回をつけますか？ たぶん見ている暇はないのですが、5回目なので、最初から最後までを全部綴じて配布するのもありかなと思っているのですけれども。

—— 去年はそうしましたよね。

(木村) 去年はそうでした。

中を読むことはしないけれども、4回分あったほうがいいのか、それとも、第4回だけあればいいのか。

—— 私は、第4回だけでいいと思います。

—— 以前もらったものですしね。

—— ホームページでも見られるし。

—— 毎回もらっていますし。あと、荷物も多いというの。

(木村) ああ、荷物が多くなる。

—— いや、荷物もだけど、もったいないというか。

—— そう、紙がもったいない。

(前参加者) 全部もらうと、確かに、ああ、今日は最後なんだという意識はありました。ただ、重い。

—— 去年は、テーマに筋があったので、前を見る意味がありましたけれども、今回は離れているから。

(木村) そうなのですね。では、第4回だけで作ります。

—— 次回は総合ファシリテーターさんがいないから、神崎さん、またスタートとか、録音のこととか、お願いしますね。

(神崎) はい。

(木村) その後は私がやりますので。あと、最後の懇親会の一言挨拶もお願いします。

(神崎) はい。

(木村) では、スケジュールに戻ります。

ということで、前回の振り返りは、この前までと変わらないスタイルでいきたいと思えます。むしろ、できるだけグループワークの時間を取りたいので、あっさりいったらあっさりいきます。

予定では、13時25分からグループワークに入ります。最初に私のほうから進め方のアナウンスがあった後、120分、各グループで話し合うということになります。休憩時間10分が含まれていますが、今回は、特にこちらから特別な指示は出しません。一応目安の紙はお送りしますが、今回は、特にこちらから特別な指示は出しません。一応目安の紙はお送りしますが、総合ファシリテーターは、先ほどありました通り、残り5分になったところで、「残り5分です」だけを言いますので、その他の管理は、サブファシリテーターさんとファシリテーターさんでお願いします。休憩時間は、別に3グループで合わせ

る必要はありませんので、少し早く終われば早めに取りってもらって、ゆっくりだったらゆっくり取ってもらうということで、各グループで対応をお願いしたいと思います。

その後は、全体共有です。6分の発表で、3分くらい質疑で、持ち時間としては10分ということでやりたいと思います。タイムキーパーは、3分と6分で合図をお願いします。発表者は2名割り当てていますので、特に発表の前に、少し早目に終わっていれば、しっかり確認してもらえればと思います。

最後はアンケート記入ということで、16時から10分間。その後、振り返り。これは本日のフォーラムではなくて、これまでのフォーラムの振り返りをしてもらう。でも、30秒でいいですよね？

—— 去年は30秒で第5回について、30秒で全体について話してもらいました。

(木村) それでもいいかなと思っています。一応、それができるように20分取ってあるのですよ。ただ、その後の説明が結構長くなると思って、30秒にしてしまったのだけど。では、1分でいきましょうか。アンケートを少し早目に終わりにして、1人1分でいきます。30秒が本日の振り返り、30秒が全体の振り返りということで。タイムキーパーは、30秒は要らないですよ。1分で鳴らしてくればいいです。

そうすると、アンケート記入を7分くらいにすると、最後の予定確認で5分くらい取れるので、こんなところかな。

で、フォーラムの終了が16時半。帰る人も帰らない人も、ここでアンケートは回収してください。

その後、15分間で懇親会の準備をして、16時45分くらいから懇親会が始められるようにするということになります。18時半に懇親会は終了して、撤収作業をして、19時には完全撤収したいと。

—— 懇親会の会費は最初に回収するのですか？

(木村) 受付ですね。

—— フォーラム終了時にもう1回アナウンスして、気持ちが変わったら。

—— 去年は、やっぱり参加しますという方がいらっしやったんですよね。

—— そうですね。

—— 懇親会に残りたいなと思われるように、皆さん、にこやかにいきましょう。

(木村) 懇親会の用意は大丈夫ですね? 2000円でいけますか?

(神崎) はい。もう頼みました。

—— それから、私たちも手が空けばいろいろとご準備を協力しますので。いろいろ指示していただくとスムーズにいくと思うので、私たちのことも使うと思って、イメージしておいてください。皆がバラバラに動くと効率が悪いのですよ。

(木村) 懇親会の準備のときに、今回は、余ったテーブルを端に、畳まないで置いてください。それで、椅子も並べておいて、そこでインタビュー日程を記入してもらえる人には記入してもらおうと思います。

机が、3つ、3つ、3つ、1つ、1つとありますね。あとはお菓子スペースが2つ。そのうち、6つを真ん中に使うので、あとは端にそのまま寄せて、要らない椅子も持ってきて、スペースを作ってください。インタビュー日程の記入を、今できる方はやって、受付に出してくださいということで、お願いしたいと思います。日程をすぐに決められる人は、もうその場で決めてしまおうと思うので。

なので、あらかじめ荷物置きになるような机を端のほうに用意しておいて、終わったら荷物をまとめて、端に移ってもらわないとですよ。ちょっとまだ私の中でイメージができていないですけども。

—— 3つの島ができるから、そこにさらに机を残すと、狭くなりますよね。

(木村) では、終わったら、まずは椅子に自分の荷物を置いてくださいと。で、自分の椅子は端のほうに動かして、荷物を机からどかしてもらおう。で、机はさっと動かして、端に記入スペースを作りましたので、そちらにどうぞと。

で、ホワイトボードは、そのままガラガラと持ってきて、B班が真ん中に置いてありますよね。その両脇にA班、C班を置く。

机は、真ん中に6つ、A班のホワイトボードがあった辺りに2つくらい、前のほうに2、3つ置くようにすると、ちょうど入るかなと思います。

で、参加者に書いてもらっている間に、いろいろと持ち込んだりできるようにしたいということですね。

で、おそらく、振り返りを話しているときには、もうお酒を買いに行ったほうがいいでしょう。この前はお酒が来るのが遅かったので、

—— 振り返りが終わった後も15分くらいかかると思いますけれども。

(木村) だけど、皆で設営したほうが早いと思うので。

—— いや、振り返りが終わったくらいに行くのがちょうどいいんじゃないですか。

(木村) 私の説明中に？

—— はい。

(木村) 最後の私の説明は、結構長いと思うのですよね。

—— だから、そのくらいで買いに行くとちょうどいいかと。
参考までに、去年のデータを言いましょうか？

(木村) 去年は 20 分くらい話していたと思います。

—— はい。

(木村) だから、10 分、10 分で予定して、1 人 30 秒という話だったので。

—— 去年は、木村先生が 1 人で 20 分話しているのですよ。

—— そうすると、その前はぜひ予定通りに進めたいところですね。

(木村) はい。遅れると最後がきつくなると思うので。

では、振り返りが終わったくらいで買いに行ってもらいましょうか。何回も行かなくてもいいように、ある程度まとめ買いしてきていいと思います。この前の実績を逆算して、買うようにしてください。受付は抜けられないし、神崎さんも抜けては駄目です。だから、サブファシリテーターの方々に行ってもらおうとか、その辺を、神崎さん、うまく見ながらお願いするようにしてください。

そうしたら、スケジュールはよろしいですか。

あとは、振り返りの後に、いろいろと参加者に連絡事項があります。

そこに関して何点か相談事項があるのですが、まず F7-8、アンケートです。毎回同じアンケートなのですが、裏返してもらおうと、Q8は「全 5 回のフォーラムを通じて、ご意見・ご感想などなんでもご自由にお書きください」となっていますが、昨年度は、「フォーラムに関して総括するシンポジウムを 9 月 16 日に開催します。そのときに示してほしい感想な

どがあればお書きください」と聞いたら、そこに書いてあった内容が、結構端的で、全体の感想を出してもいいよという形で書いてくれたので、すごく使いやすかったので、今回も入れようと思っています。そうしようと思いますというご報告です。

次に、F7-10 を見てください。フォーラムインタビューご協力のおかげということで、中に 2 枚、日程調整表と控えが入っています。昨年、日程調整表だけ入れておいたら、控えもほしいと言われたので、今回は控えと調整表と 2 枚入れて、その場ですぐに出してもらえようになりたいと思っています。インタビューの中身については特に言いませんけれども、今回は竹中君と相談をして、インタビューガイドの 4 番、「コミュニケーションについて、あなたのお考えを聞かせてください」ということで、「各回フォーラムの終了時アンケートの結果（コミュニケーションのステップの達成度）を参照しながら、フォーラムでのコミュニケーションを振り返りましょう」という質問を入れました。1 番がここで達成されましたね、なぜそこで達成されたのでしょうか、ということが分かるようにインタビューしたいと思っています。そのうち、竹中君のほうから面白い結果が出てくると思います。当日は、このアナウンスもします。

あとは、F7-11、F7-12 を見てください。今回は、配布資料が市民の方と専門家の方で違いますので、注意してください。机に配置しておいて注意するのか、受付で渡したほうがいいですか？

—— それでもいいですし、置いておいてもいいですけども。ファイルの一番上にシールをつけておけばいいですよ。

（木村） では、クリアファイルに赤いシールと青いシールを貼って、それぞれ別の資料になりますので、そこは少し注意してください。

何が違うのかというと、前半は一緒です。9 ページですね。「原子力に携わっている人たちや組織について、おうかがいします」について、専門家のほうでも市民と同じように聞くことにしたということです。専門家のほうは、前は「一般の市民はどう考えているとお考えでしょうか」だけを聞いていたのですけれども、今回は新設で、専門家にも、「原子力に携わっている人や組織に対する印象として、どれに当てはまるでしょうか」というのを書いてもらうようにしました。そうすると、一般の人たちが思っている結果と、専門家がどのように思われているかという結果との比較だけではなくて、実際に自分たちがどう思っているかということの比較もできるので。特に、原子カムラということにかなり注目した研究ですので、ここについては、専門家のほうで 2 ページ分作ってやってもらうことにしたということがひとつ。

あと、昨年度も専門家だけに聞いている質問が 2 問ほどあったので、それは今年も聞いています。専門家のほうの 17 ページですね。Q37、38 で、「あなたは、このフォーラムに参加して、自分が原子カムラの一員であると思うようになりましたか、それとも、原子力

ムラの一員ではないと思うようになりましたか」という質問です。これは市民に聞いても仕方がないので、専門家のみの質問ですけれども、専門家のほうが枚数が多い設計になっています。

昨年度もこのアンケートをやっているはずなのですが、ここの結果は見えていないですね。なので、後で土田先生に問い合わせ、昨年度と今年度といろいろと比較をして、データをくださいというメールを送ろうと思っています。

そんな感じでアンケートを用意しています。

このアンケートは、その場で記入してもらうのではなくて、一度帰ってから、落ち着いたときに書いてもらうことにします。回収は8月3日（日）ということで、1週間くらい取って、土日くらいでやっていただこうと。

—— このアンケートはどんな形でファイルの中に入っているのですか？ 他の資料と同じような感じですか？

（木村） はい。

—— そうすると、サブファシリテーターの方に注意していただきたいのは、最近、アンケートを書いてくださいと言われる前からアンケートを書き始めている方がいるのです。ここまで入りそうになったら止めてください。

（木村） そうしたら、回収封筒があるので、回収封筒に入れて挟んでおきましょうか。もしくは、最後に配るか。どうしますか？

—— 封筒に入れておけばいいと思います。

（木村） では、回収の封筒に入れて、ファイルに入れておくようにします。こちらの封筒は、今は中を見ないでくださいということを、サブファシリテーターさん、グループで注意しておいてもらえますか。

すみません、最後なので、いろいろと注意しなければいけない事項があって申し訳ないですが、よろしくをお願いします。

—— インタビューの日程表ですけれども、先生が直接回収されますか？ それとも、

（木村） いえ、受付で回収してください。全員はたぶん回収できないと思うので、その場で分かる人は受付に出してくださいと言いますので、で、懇親会が始まったくらいで、回収された分は私に回してくれれば、もうその場でフィックスしますので。

あとは、懇親会の途中で振り返りを作成と書いてあります。反省会をやりませんので、懇親会が始まって、少し落ち着いてきたなというところで、端っこで、メモを書いてください。メモの様式はこれから作って、皆さんに当日にお渡ししますが、懇親会が終わった後に受付に提出ということで、お願いします。

あと、最終回なので、懇親会のために、第 1 期フォーラムの参加者にスタッフに入ってもらっていたということを打ち明けてもらおうかなと思っているのですが、どうでしょうか？

(前参加者) いいです。感想を言いたいですね。

(木村) いいですよ。

—— 感想を言うのはどうでしょうか。感想はやめたほうがいいと思います。

(前参加者) はい。とりあえず、去年市民で出ておりました、でいいですね。

(木村) はい。

—— どうでしたかって聞かれますよね。

(木村) まあ、でも、少しはいいんじゃないですか。

(前参加者) さらっと答えるようにします。

(木村) ええ、さらっと。演説する時間はないですし。

前期の参加者の間でも、懇親の機会を作ってくださっているようですから、今年も、もし興味がある方はどうぞ、みたいな感じで紹介しようと思いますので。

—— 去年のメンバーはやっているのですか？

(前参加者) 女子会なのですけども。でも、男性の参加者の方から、そろそろ 1 年になるので、同窓会はどうですかという連絡も来ています。女子会は二度ほどしました。

(木村) 第 1 期の参加者で同窓会をやろうとしていますとか、そういう話をしてもらおうといいと思います。

—— 内容の話はしないほうがいいと思います。

(木村) ええ、内容の話はちょっと。

(前参加者) 質問されたら、さらっと答えます。

(木村) そして、第 2 期の方もどうですか、みたいな話はしてもいいのかなと思って。そんな感じで少しつながってもらえればなと思います。

あと、今年は、明確にシンポジウムの日付は決めていませんけれども、

—— あるのですか？

(木村) する予定です。1 回分やると宣言しているので、どこかでやろうと思っています。ただ、内容は去年のようなものではなくて、もう少し学問的な、研究全体の総括としてのシンポジウムをどこかでやろうと思っています。その辺のアナウンスも、参加者の皆さんにはしようかなと思っています。第 1 期の方にもまた連絡すると思います。

—— 評価委員の方の視察は、結局どうなったのですか？

(木村) これから連絡します。

JSTの方が来るかもしれないですね。

ということで、第 5 回はいろいろあると思いますが、よろしくお願いします。原子力とは離れたところで、ちゃんとお互いのコミュニケーションをどう取るか。

—— お休みの方はいないのですか？

(木村) 今のところ、連絡は受けていません。

3. その他

(木村) では、これで今日の研究会は終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。

以上